

ブラジル国の開発ニーズ

- 2011年のリオデジャネイロ近郊の大規模土砂災害(900名が死亡)をはじめ、都市近郊の土砂災害が頻発
- 土砂災害対策実施の経験が乏しく、有効な対策が実施されておらず、日本の防災技術が求められている。

普及促進事業の内容

- 自然災害の予防・復旧事業における政府関係者に、鋼製砂防堰堤(鋼製スリットダムB型及びSBウォール工法)の機能、構造、設計、積算、施工方法等に係るセミナーを開催し、理解を促す。
- 本邦受入活動にて、日本の土砂災害発生現場における施工箇所の視察を行う。
- 現地パートナー企業とのライセンス契約に向けた協議を詰める。

提案企業の技術・製品



鋼製砂防堰堤

上: 鋼製スリットダムB型
下: SBウォール工法

事業のポイント

- ・ブラジル国の国家戦略である「安全な都市造り」への貢献
- ・日本のインフラ輸出の推進

ブラジル国側に期待される成果

- 人的・資産・公共インフラに対する直接被害を軽減し経済便益をもたらす。
- 公共インフラ機能を保全することで間接的な経済便益をもたらす。
- 都市拡張区域の災害を予防することで安全な住宅地を創出する。

日本企業側に期待される成果

現状

- ブラジルでは、砂防施設の活用がほぼ無く、技術が不足している状況。
- 土砂災害対策に係る技術移転(JICA技術協力プロジェクト)により、政府関係者の関心が増大し、伴に実施したリスク評価により、危険地として把握された地域に対し本提案を行うこととなった。

今後

- ブラジル国内における当該技術の優先的な市場確保を図る。
- 中南米諸国への進出拠点と位置付ける。